



記者発表資料

「R2国道6号新宿拡幅電線共同溝工事」において、「見積活用方式」、「間接工事費実績変更方式」を試行し、「難工事指定」、「余裕期間制度」を採用します。

工事発注において、予定価格超過や入札参加者がいないことなどを理由として、入札のとりやめや不調が予測される工事について不調不落対策を試行しております。

今回発注する「R2国道6号新宿拡幅電線共同溝工事」について、別紙のとおり不調・不落対策を試行及び採用します。

①「見積活用方式」

本工事は、市街地であり現道交通及び沿道店舗等の出入りを確保しながら狭隘な作業ヤード内での施工となるため、作業効率が低下することが懸念されます。

このため、入札者から見積の提出を求め、その価格の妥当性を検証のうえ、予定価格に反映する「見積活用方式」を試行します。

見積を求める工種は、標準的な積算と乖離が予想される工種より選定しています。

②「間接工事費実績変更方式」

本工事は、運搬費・安全費において、標準的な積算と実勢価格に乖離が生じることが予想されるため、その妥当性を確認のうえ、実績により共通仮設費（率分）を変更する「間接工事費実績変更方式」を試行します。

③「難工事指定」

工事を適切に完成させた場合、その後の発注工事における総合評価項目「難工事施工実績評価対象工事（試行）」を加点対象とする「難工事指定」を採用します。

④「余裕期間制度」

契約期間内であるが、工期外であるため、受注者は監理技術者等の配置が不要であり、工事に着手してはならない期間のことです。

工事着手以外の工事のための準備は、受注者の裁量で行うことができるため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる制度です。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、都庁記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所

電話 047-362-4111（代表）

副所長 たけだ ひろあき 竹田 弘明 工務課長 こばやし けんじ 小林 謙二

《工事概要》

- (1) 工事名：R2国道6号新宿拡幅電線共同溝工事
- (2) 工事場所：自) 東京都葛飾区新宿4丁目
至) 東京都葛飾区金町5丁目
- (3) 工期：工事の始期から186日間（工事着手期限 令和3年9月27日）
- (4) 入札方式：一般競争入札総合評価落札方式（施工能力評価型Ⅱ型）
- (5) 工事種別：アスファルト舗装工事 A等級
- (6) 工事内容（概要）：
- 仮設工 1式（土留・仮締切工 1式）
 - 舗装版撤去工 1式
 - 開削土工 1式（掘削工 510m³ 埋戻し工 330m³）
 - 電線共同溝工 1式（管路工 850m プレキャストボックス工（特殊部）19基）
 - 舗装工 1式（アスファルト舗装工 70m² 透水性舗装工 410m²）
 - 排水構造物工 1式
 - 構造物撤去工 1式

《見積活用方式》

○見積の提出を求める工種

直接工事費のうち、「土留・仮締切工」、「掘削工」、「埋戻し工」、「管路工（管路部）」、「プレキャストボックス工（特殊部）」、「アスファルト舗装工」、「透水性舗装工」、「側溝工」、「排水構造物撤去工」

○見積の提出を求める理由

施工箇所は、片側2車線で供用中の一般国道6号であり、交通量は約5万台/日と多く、市街地であり、沿道全域に店舗や住宅等が連坦している箇所です。

施工にあたっては、狭隘な作業ヤード内で沿道の出入りを確保しながらの施工とならざるをえず、作業効率の低下に伴い、標準的な積算と実勢価格に乖離が生じると考えられるため、入札者から見積の提出を求め、その価格の妥当性を検証の上、予定価格に反映する「見積活用方式」を試行します。

《間接工事費実績変更方式》

○実績により変更を行う工種

・ 共通仮設費（率分）のうち、「安全費」及び「運搬費」

○実績により変更を行う理由

本工事箇所は、片側2車線で供用中の一般国道6号であり、交通量は約5万台/日と多く、市街地であり、沿道全域に店舗や住宅等が連坦している箇所です。

このため、「安全費」については、現道交通、沿道店舗等の出入り及び歩行者の安全を確保しつつ、交通規制帯をこまめに分割して施工しなければならないことから、「安全費」について標準歩掛と乖離が想定されます。

また、「運搬費」については、沿道全域に店舗・住宅等が連坦することから、施工箇所周辺に資機材置き場の確保が困難であり、その都度資機材の搬入が必要となるため、「運搬費」において標準積算と乖離が想定されます。

以上の点から、間接工事費実績変更方式の対象項目として「安全費」、「運搬費」を対象とします。

《難工事指定》

本工事は、交通量が多い現道上での夜間作業、限られた狭隘な作業ヤード内での施工になることから厳しい安全管理が必要であるため、「難工事指定」を採用します。

「難工事指定」された工事は、完成時に70点以上の工事成績評定を通知された場合、今後発注される「難工事施工実績評価対象工事（試行）」の総合評価の評価項目において加点対象となります。

《余裕期間制度（任意着手方式）》

本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した工事着手期限（令和3年9月27日）までの間で、受注者が工事の始期を任意に設定することができます。

なお、工事の始期までの余裕期間内は、監理技術者等の配置が不要となります。

《スケジュール》

○入札公示、入札説明書、見積依頼書 交付	: 令和3年7月14日（水）
○競争参加資格確認申請書、資料、見積書の提出期限	: 令和3年7月30日（金）
○入札書・工事費内訳書 提出期限	: 令和3年9月 3日（金）
○開札日	: 令和3年9月 8日（水）